発刊のあいさつ

浦添市教育委員会　教育長　大　盛　永　意

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六十二年度）より『琉球王国評定所文書』刊行事業を推進してきました。『琉球王国評定所文書』は、琉球近世史研究にとって貴重な史料であるばかりでなく、東アジア世界の同時代史料としても重要な意味をもっており、既刊は県内外にとどまらず、海外においても、はばひろく研究に活用されています。

浦添市は古琉球以来の歴史・文化の伝統をふまえ、「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」「教育の進展、文化の高揚をめざす都市づくり」を目指しています。古代の祭祀歌謡集『おもろさうし』にも「うらおそい」と謡われた当市は、かつての王都として栄えた時代の理想を胸に、市民の誇りと自信を培い、文化の創造と発展に寄与することを目的に、市の文化事業の一環として、『琉球王国評定所文書』を刊行してきました。

今年度刊行の『琉球王国評定所文書』補遺別巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で、一五一五号・一五一六号・一五一七号・一五一八号、以上四つの文書が収録されています。

これらの文書群は、東京大学史料編纂所に所蔵されていたものを、一九九八年（平成十年）五月に、山梨学院大学教授の我部政男氏と沖縄県教育庁文化課長補佐（当時）の宮城保氏らによって発見・確認されました。一五一五号文書は咸豊三年九月一日から咸豊五年一〇月一八日までの史料、一五一六号文書は咸豊四年一月一日から六月三〇日ま

での史料、一五一七号文書は咸豊四年七月一日から一二月三〇日までの史料、一五一八号文書は咸豊四年一月一一日から二四日までの史料です。波の上の護国寺に長期滞在していたイギリス人宣教師ベッテルハイムの帰国、彼の後任モートンの逗留、また、プチャーチン提督率いるロシア艦隊の来航などについて、事細かに記述されています。

また、一五一八号文書は、『沖縄県史料』前近代3ペリー来航関係記録2（一九八四年）、および『琉球王国評定所文書』第九巻に既に収録されていますが、それとは異なる写本であることから、今回あらたに収録しました。これらの史料が多くの市民をはじめ、県内外、海外の研究者の間で活用されることを願っています。

なお、本巻は、以上四つの文書を収録した「補遺」の部分と、「全巻総目次」「刊行事業年譜」「簡易索引」からなる「別巻」の部分に分かれています。「補遺」の史料とあわせて、全巻を検索できる「別巻」の情報を活用していただければ幸いです。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学史料編纂所関係各位、また史料の筆耕解読にご協力下さいました深澤秋人氏に深く感謝申し上げ、発刊の言葉といたします。

二〇〇二年（平成十四年）一月吉日